

## いちごのハダニ類の増加に注意しましょう！

いちごに発生するハダニ類のうち特にナミハダニ（写真1、2）は、近年、化学合成農薬に対する感受性が著しく低下しており、防除が困難となっています。

これからの時期は施設内が乾燥し、ハダニ類の増殖に適した条件となります。薬剤感受性の低下したハダニ類に対しても有効な気門封鎖剤や天敵類を活用することで、ハダニ類の増加を上手に抑えましょう。



写真1 ハダニ類(ナミハダニ)雌成虫

写真2 ハダニ類(ナミハダニ)被害株

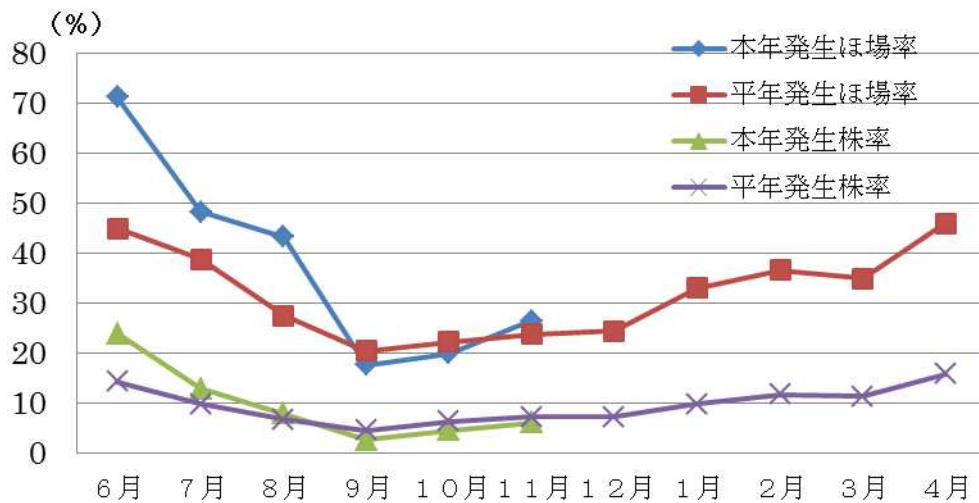


図 いちごのハダニ類の発消長

### 【防除対策】

#### 薬剤散布時の注意

- ・ 薬散はかけムラの無いよう、葉裏のハダニ類を洗い流すように散布しましょう。
- ・ 葉かき後は薬剤がかかり易く、防除に適しています。
- ・ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤の連用を避けましょう。ローテーションに気門封鎖剤を組み入れることも有効です。

#### 天敵カブリダニ類の利用（スパイカルEX、スパイデックスなど）

- ・ 天敵のカブリダニ類を使用する場合には、ハダニ類の発生初期から計画的に利用しま

しょう。ハダニ類が多すぎると、十分な防除効果が得られません。

- ・放飼直後のカブリダニ類は落ち着きが無く不安定です。
- ・放飼直後の薬剤散布や硫黄くん煙は、定着性を悪くします。病害虫防除は、カブリダニ類への影響を考慮して薬剤を選択し、カブリダニ類の放飼前に済ませましょう。
- ・カブリダニ類は化学薬剤と違い、効果が現れるまでに数か月程度かかります。

気門封鎖剤の利用（ムシラップ、サンクリスタル乳剤、エコピタ液剤など）

- ・薬剤によっては、散布によってマルチの汚れや果実に薬害を生じることがあります。各薬剤の特性をよく確認して使用しましょう。
- ・気門封鎖剤はハダニ類に直接かからなければ効果が無いため、十分量を散布しましょう。
- ・成虫には高い効果がありますが、卵には十分な効果がありません。必ず5～7日程度の間隔で複数回散布し、残った卵から孵化するハダニ類もしっかり防除しましょう。

【備考】

- ・農業環境指導センターホームページで、「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」を公開中。

表1 いちごのハダニ類に登録のある主な薬剤(平成24年11月9日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	カブリダニ類への影響	ナミハダニの薬剤感受性検定結果 <sup>1)</sup>	
					成虫	卵
ダニサバフロアブル	1000倍	前日まで	2回以内	使用可		
スターマイトフロアブル	2000倍	前日まで	2回以内	使用可		
カネマイトフロアブル	1000～1500倍	前日まで	1回	使用可	×	
コマイト水和剤	2000倍	前日まで	2回以内	やや影響		
マイトコーネフロアブル	1000倍	前日まで	2回以内	使用可		×
テテオ乳剤	500～1000倍	3日前まで	2回以内	使用可	×	

1) 薬剤感受性検定については「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」参照。

詳しくは、農業環境指導センター（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>）までお問合せ下さい。

また、当センター携帯サイト(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>)もご利用下さい。

( 0 2 8 - 6 2 6 - 3 0 8 6 )